

県外派遣報告書

審判員名	藤林 比登美	所属	U18東部
大会名	令和6年度 関東高等学校女子バスケットボール大会		
期間	2024年6月8日(土)～9日(日)		
会場	アリーナ立川立飛／東京女子体育大学		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
6月5日(水)	審判会議	(オンライン)自宅	
6月8日(土)	1・2回戦	東京女子体育大学	
6月9日(日)	準決勝・決勝	東京女子体育大学	
会議 講義 内容			
<p>「ヘルプディフェンスについて」 指名審判員 村上恵美氏(神奈川)、坂美佑紀氏(茨城)、大坪綾音氏(千葉) ～POINT～ ①誰のプライマリーで起きているか。 ②誰がDFを一番長く見ることができていたか。 ③ヘルプディフェンスレベルより下にいるオフENSEをリードは把握する。 ④ペイントの中が全てリードが判定するというわけではない。(プライマリマッチアップはそのまま) ⑤推測して吹かない。 ⑥センターは引き続きセカンダリとして判定にアテンドする。 ⑦ペイントをルーズにすることでスライスアングルをとる。 ⑧オフENSEの肘や膝などの判定はセンター、トレイルからのアングルが良く見える。 ⑨トランジションはヘルプディフェンスの定義はなく、判定はリードが一番手となる。 ※ペイント内のコンタクト≠全てがリード ★key word「慮る」 ゲームを進めるにあたり・・・ 「正しいルール・IOTの実践」→「Basicなメカニクス(ヘルプディフェンス等)」→「3人の共通理解・リスペクト」を大切に、思考・判断・決断をしていく。good game good.jpで終われるように。</p>			
実技			
担当試合	期 日	6月8日(土)	女子
	対戦カード	作新学院 VS 千葉英和	CC U1 U2
	相手審判	CC中野嗣久氏(東京) U1望月由希子氏(千葉)	
ミーティング内容		主任	久保あしみ氏(千葉)
<p>ゲーム前のミーティングでは基本的なメカニクス、審判会議でご講義いただいたヘルプディフェンスについて再確認をした。試合の中で起こったヘルプディフェンスについて、クルーで共通して判定を進めることができた。 試合を通して、トラベリングに対して判定の基準を示せると良かった。突き出しの遅れ・踏み替え・ズレなどについての明らかなものをクルーでセიმコール出来なかったのが反省である。ヴァイオレーションだけでなくファウルについてもベーシックに判定していくことが、結果的にゲームコントロールに繋がっていく。判定に対してのベンチからのアピールに対しても、寄り添いながらゲームコントロールに繋がれば良かった。</p>			

実技

担当試合	期 日	6月9日(日)	女子	
	対戦カード	鶴沼 VS 東京成徳	CC	U1 U2
	相手審判	CC三好英美氏(東京) U1久保あしみ氏(千葉)		

ミーティング内容 主任 竹澤友美氏(埼玉)

ゲーム前のミーティングではプレーコーリング、チームの情報などを共有した。終始点数の入れ合いとなるエキサイティングな試合展開であり、タフなコンタクトが多印象であった。クルーとしては、共通認識を図りマージナルとして判定していたものが、試合後のミーティングではもう少しコンタクトへの白黒をつけられると良かったと講評をいただいた。イリーガルな手の使い方やコンタクトの起こし方は、その場だけの影響でなく、試合を通して影響してしまうものである。一つ一つの判定に意味を持ってゲームをコントロールしていきたい。個人の反省としては、スクリーナーに対してそのディフェンスがストレスを与え続けているところに対して決着をつけるべきであった。

全体の感想

この度は、関東高等学校女子バスケットボール大会へ派遣していただきありがとうございました。初日の2試合を担当させていただきましたが、コンタクトについてどのように判定をしていくかということが課題として残りました。リーガル・イリーガル・マージナルなコンタクトに対して、根拠を持って示せるように判定の質を上げていきたいと思えます。また、今大会では、ここ数年間で一番女性審判員数が多かったとお聞きしました。私自身、同じ年代の女性審判員の方との交流などからとても良い刺激をもらい、これからより一層頑張っていきたいと思える大会でした。同時に、オンザコートでの力強さについて、私自身がまだまだ足りないことも痛感しました。

最後になりますが、今大会を運営していただいた皆様、開催県である東京都バスケットボール協会の皆様、派遣審判員の皆様、日頃よりご指導いただいております埼玉県審判員の皆様へ心から感謝申し上げます。今後ともこういった機会をいただけますよう、審判活動に取り組み精進して参ります。